

規模多機能型居宅介護「サービス評価」(総括表)

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮崇	法人・ 事業所 の特徴	自分や家族・友人が利用したいと思うサービスを提供します。 通所・宿泊・訪問この3つを自由にその方にとって必要な支援を組み合わせ、その時の体調や状況によって柔軟なサービスを提供しています
事業所名	小規模多機能型居宅 介護アネックス関原	管理者	池田愛美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	1人	1人	1人	人	2人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	新規、退院後などの身体状況は書面だけではなくミーティングで共有する。	タイミングよく新規の方がミーティングで情報共有できなかったが、できる限りミーティングにて情報共有することに努めていた。	スタッフが事業所自己評価に取り組んでいることが確認できた。	今後も新規、退院など身体状況等の情報を書面だけではなく、ミーティングで共有する。 家族とスタッフが話をできるシステムを作る。
B. 事業所のしつらえ・環境	行事の際、来て下さった方に事業所に関するアンケートを実施し、広報紙に反映できるよう作成に繋げる。	アンケートの実施は行われなかったが、地域の茶の間等で話をお聞きして、地域のニーズに合わせた広報誌を作成するように努めることができていた。	テラスもあり、開放的で入りやすい雰囲気はある。 職員の挨拶もできている。 居心地の良い雰囲気になっている。 鍵もかかっている。 不快な音や臭いもない。	定期的な地域の茶の間の継続を行い、地域の方との交流を図る。 広報誌の作成を継続して、事業所を地域の方から知って頂けるように活動する。
C. 事業所と地域のかかわり	定期的に地域交流やテラスの開放を行い地域交流を行う。	地域の茶の間は定期的に開催されており、徐々に地域の方へも浸透している。 地域の方にも福祉事業所として知られている。地域の祭りや避難訓練にも参加している。	地域に開放されて入りやすい雰囲気がある。 地域の茶の間も定期的に開催されている。	継続して、地域の茶の間を開催していく。 地域の方との交流の中で事業所として貢献できることを検討していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	ミーティングにて利用者の情報を共有する。利用者に係る社会資源を整理しライフサポートの作成に繋げる。地域のイベントの把握を行う。	開放的な建物であり、自由に出入りができている。 定期的に運営推進会議が行われている。 地域の祭りなど利用者も楽しむことができています。	開放的であり、利用者を閉じ込めている印象はない。 事業所での利用者の過ごし方はわからない。	地域のイベントに積極的に参加する。 地域の茶の間を活用して、ご近所の情報収集を行う。

E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議で地域の課題や広報紙の内容説明を取り入れる。	運営推進会議での内容を広報誌に反映できなかった。	定期的開催されており、事業所の運営の様子がわかりやすい。地域で心配な方や個人の事例検討を会議内で検討していない。	地域の心配な方等の事例検討を行う。
F. 事業所の防災・災害対策	防災マニュアルに基づいた動きを確認する。福祉避難所について啓発活動を行う。	地域の避難訓練に参加できた。福祉避難所であることを地域に啓発できた。避難訓練を行い、防災マニュアルを確認できた。	事業所の防災計画は今後も検討していく方が良い。避難訓練に関しては運営推進会議の中で行う。	地域の方に福祉避難所であることの啓発活動を継続していく。地域の方も交えた避難訓練を行う。